

# UAVの知識深める 県西農林で勉強会開く

地理空間情報  
推進協会

地理空間情報推進協会（中島博敬代表理事）は、11月19日、茨城県県西農林どの職員に向けて、UAV（ドローン）研修会を



操縦の基本操を体験した



UAVで記念撮影

開催した。研修会は座学編と体験編で行われた。座学は、ドローンとは何か、公共事業への展開（写真測量やレーザー測量の活用方法）について、体験編では、デモ飛行や操縦の基本操作体験の内容であった。

研修会の質疑では、受講者から「空撮と3次元点群作成ではカメラを別ける必要があるか?」、「3Dモデルの活用に関してどんな利点があるのか?」、「3次元点群の精度について」などを質問。これらに対して協会からは「カメラは成果に合わせて使いわけが重要」「平面図・横断図・縦断図という2次元での理解ではなく、3Dで状況が見える化することで地域住民説明への応用が可能」、「裸地を対象とすれば誤差は少ない」と回答した。